

廃棄物発生抑制の取り組み

使った容器包装を廃棄物にしない取り組み（リサイクル推進）

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源としてリサイクルする活動に取り組んでいます。

全店にリサイクルボックスを設置し、容器包装資材をお客様から回収。

捨ててしまえば廃棄物になるトレイや牛乳パックなどを再び資源として活用できる「リサイクルの環」をつくりあげています。

容器の店頭回収

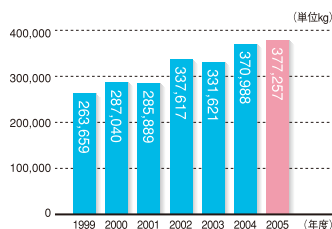
リサイクルボックスの全店設置

食品取扱店舗には店頭や店内に、容器回収の「リサイクルボックス」を設置し、再生資源として回収しています。また、回収実績をポスターで開示しています。2005年度の「発泡スチロール」の回収実績が前年より減少した原因は、市町村の「容器回収」が推進されてきたことによると推測されます。



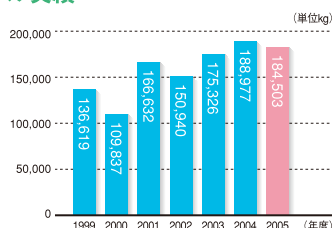
牛乳パックリサイクル実績

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率(%)
1999	127	133	95.5
2000	129	133	97.0
2001	138	145	95.2
2002	138	139	99.3
2003	135	136	99.3
2004	137	141	97.2
2005	138	140	98.6



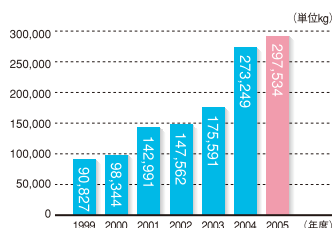
発泡スチロールトレイリサイクル実績

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率(%)
1999	130	133	97.7
2000	133	133	100.0
2001	140	145	96.6
2002	139	139	100.0
2003	136	136	100.0
2004	139	141	98.6
2005	139	140	99.3



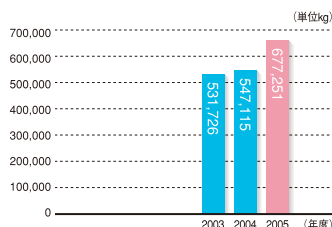
アルミ缶リサイクル実績

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率(%)
1999	97	133	72.9
2000	90	133	67.7
2001	102	145	70.3
2002	102	139	73.4
2003	108	136	79.4
2004	113	141	80.1
2005	114	140	81.4



ペットボトルリサイクル実績

年度	参加店舗	食品取扱店舗	参加率(%)
2003	53	136	39.0
2004	64	141	45.4
2005	68	140	48.6



回収した容器のリサイクル

リサイクルセンターに集約

中京本部の各店舗で回収した容器（リサイクル資源）は、弥富物流センター内の「リサイクルセンター」に集められ、リサイクル資源毎に計量し、効率的に搬送しやすいように圧縮し、それぞれのリサイクル工場に搬出します。各店からのリサイクル資源の集約には、店舗への物流便の帰り便を使っているため、エネルギーや排気ガスの削減になります。

容器包装リサイクルの仕組み

